



Veritas In Silico

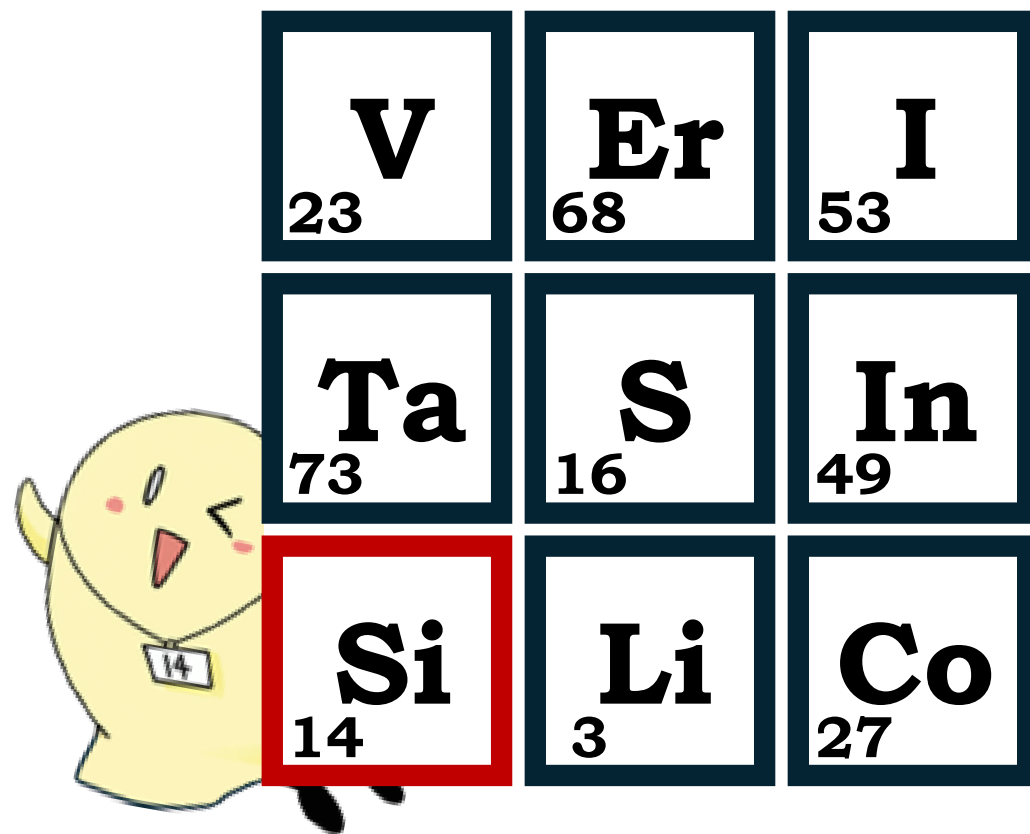
Bringing new hope with mRNA-targeted drugs

2026年12月期 第2四半期 決算説明資料

株式会社 Veritas In Silico

証券コード: 130A

2026年8月5日



プラットフォーム事業: パートナーシップの推進

- 共同創薬研究は引き続き進行中。武田薬品との共同創薬研究終了
- スイス SpiroChemとmRNA標的化合物の共同探索研究を開始
- 新規契約獲得に向け、CDA締結済みの農薬企業含む国内外8社との契約交渉を継続し、事業開発を推進

パイプライン事業: 自社開発パイプライン順調

- 自社パイプライン1については、非臨床試験に向けた動物実験を年内にも開始できる見込み
- 自社パイプライン2については、2026年内の新規核酸医薬品に関する特許出願を目指し、複数の有望候補を創出
- ALS治療を対象とする新規核酸医薬品についての物質特許が公開され、東京慈恵会医科大学と共同記者会見を実施

ドラッグデリバリーシステム事業: ロードマップを着実に実行

- PMDA開発前相談を8/28に実施する。2027年販売開始の計画変更なし

2026年12月期 第2四半期決算の要約

- 事業収益は36百万円、事業費用は283百万円、当期純利益は△386百万円

製薬業界では大手製薬会社が医薬品候補物質の導入を重視し自社創薬を控える傾向が加速している。その潮流に慎重であった日欧の製薬会社も急速に追従しつつあり、大手製薬会社とのプラットフォーム契約機会は世界的に減少傾向にある。

01

プラットフォーム事業: 潮流を理解しつつチャンスを広げる

- 既存の共同創薬研究を進捗させて、mRNA標的的低分子創薬の成功事例を作る
 - 技術的なブレイクスルーを示して、業界の潮流を変化させる
- 創薬の意欲が旺盛な国内外バイオテックとの契約を締結し、将来価値の高くなるプロジェクトを推進する
- 大手製薬会社との契約に向けて引き続き取り組み、早期収益を得られるプロジェクトの実現を目指す

02

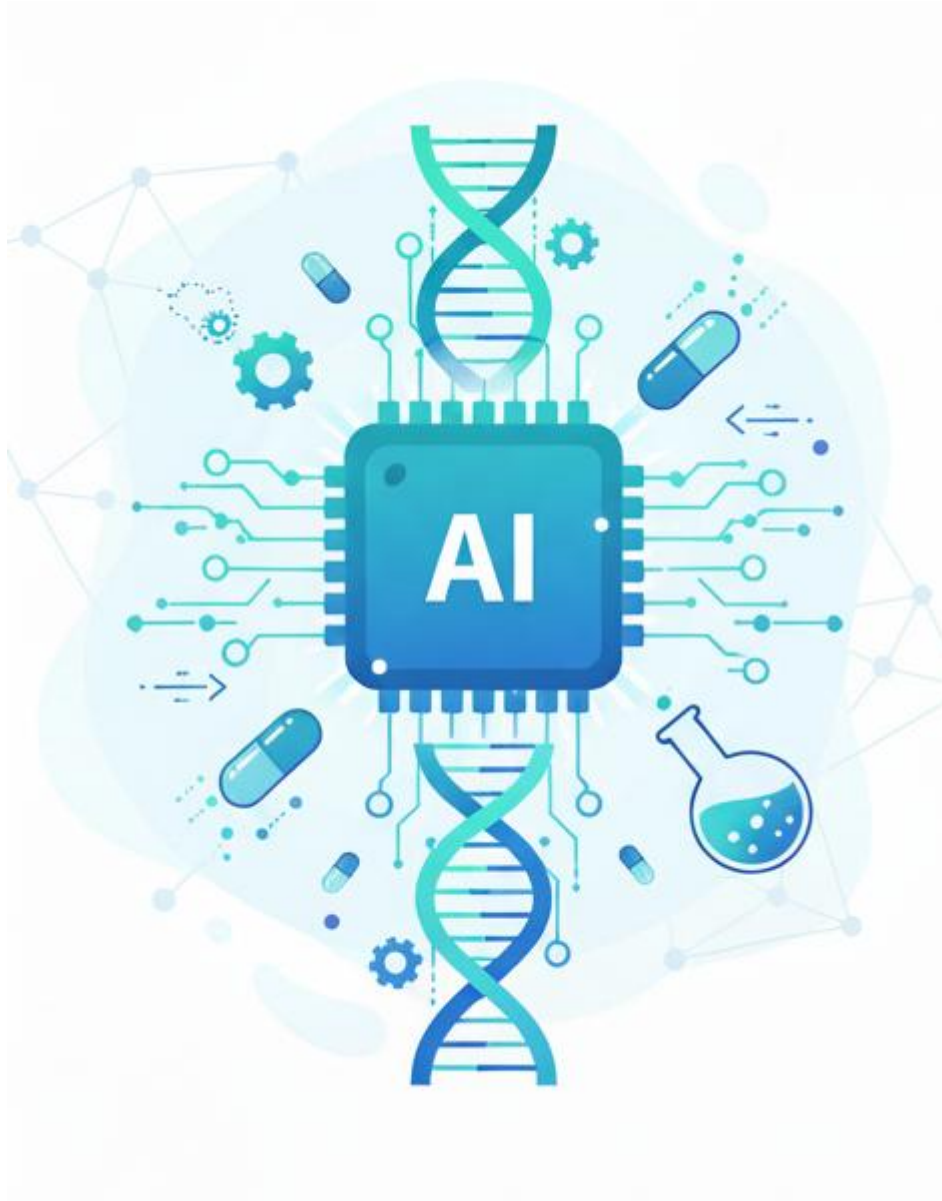
自社パイプラインの拡充: 製薬会社が求める医薬品候補物質創出する

- パイプライン1については、DDS(ドラッグデリバリーシステム)による臨床試験のコストと期間を抜本的に削減し、将来価値の向上と早期マネタイズを意識する
- パイプライン2については、2026年度に創出する

03

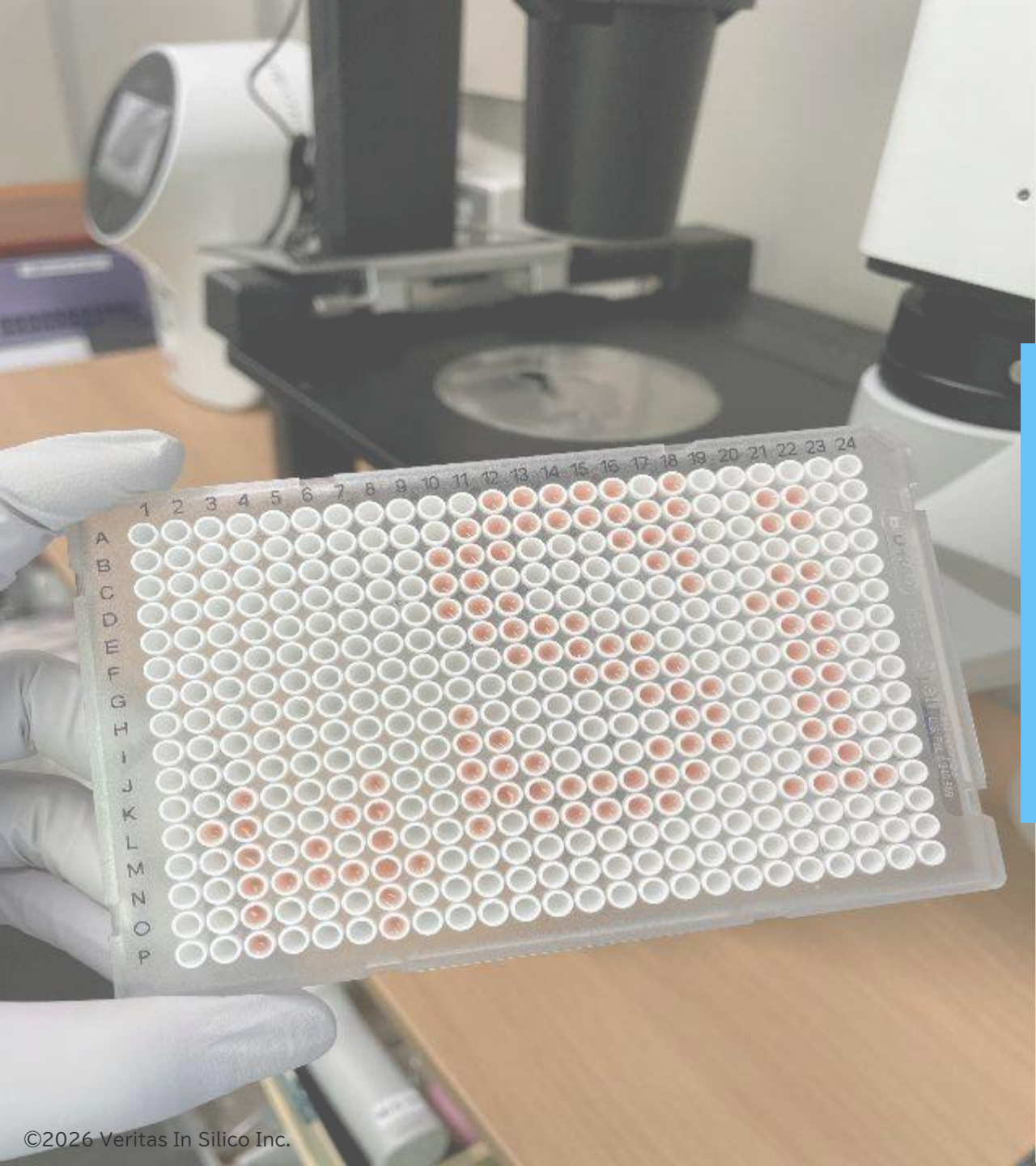
多角化を通じた事業の安定を図る

- 当社AI創薬プラットフォームaibVISの応用性を活かし、農薬事業について参入する
- DDS自体のライセンスアウトによる収益化も視野に入れる



Contents

- 1 会社概要
- 2 事業ハイライト
- 3 財務ハイライト
- 4 成長戦略
- 5 Appendix



- 1 会社概要
- 2 事業ハイライト
- 3 財務ハイライト
- 4 成長戦略
- 5 Appendix

治療 “できない” を “できる” にするバイオテック企業

少数精鋭の専門家たちによるAI創薬のバイオテック企業。

会社名	株式会社 Veritas In Silico (VIS)
設立	2016年11月17日
本社	東京都品川区西五反田一丁目11番1号
事業所	川崎研究所:神奈川県川崎市 新潟研究所:新潟県新潟市
代表者	代表取締役社長 中村 慎吾
市場	東証グロース 証券コード: 130A
従業員数	23名 (2026年6月30日現在)
事業内容	独自開発のAI創薬プラットフォーム aibVIS により、製薬会社をパートナーとして、mRNA標的 low molecular weight 医薬品の創出に取り組む。 あわせて、核酸医薬品を中心に自社パイプライン創出にも取り組む。



当社の事業拡大とパートナーシップの歴史：国内外の連携を強化

mRNA標的的低分子医薬品の共同創薬研究と合わせて、主として核酸医薬品のパイプライン創出でも各社と提携。加えて2025年度以降、毎年一本の自社パイプライン創出を推進。

2017 ■ 核酸医薬品の自社研究開始

2018 ■ mRNA標的的低分子創薬の共同研究開始

2021 ■ プラットフォーム事業開始

東レとの共同研究開始 ¹
塩野義製薬との共同研究開始 

2022 ■ ラクオリア創薬との共同研究開始 

2023 ■ 武田薬品との共同研究開始 ²

2024 ■ 共同研究でのパイプライン事業開始

LCC Technologiesとの共同研究開始 

2025 ■ 自社パイプライン1創出

三菱ガス化学との共同研究開始 
SpiroChemとの共同研究開始 

2026 ■ ドラッグデリバリーシステム事業開始

自社パイプライン2創出³

当社独自のAI創薬プラットフォームaibVISの高い汎用性と拡張性を活かし、複数の事業機会を戦略的に展開。

プラットフォーム事業

mRNA標的的低分子医薬品

従来のタンパク質標的の低分子創薬では有効な治療薬が見つからない疾病や、高価な治療法しかない治療ニーズへの解決策となる。

自社パイプライン創出

核酸医薬品

aibVISによって短期間に核酸医薬品の創出が可能となる。希少疾患に対する治療の可能性を提供していく。

プラットフォーム事業

mRNA標的的低分子農薬

aibVISは、ヒト医療用医薬品に限らず農薬の創出にも応用可能。自然環境や人体への影響が少ない農薬を創出する。

ライセンスアウト

ドラッグデリバリーシステム

効果的な投薬を可能にすることにより、核酸医薬品の抱える課題を抜本的に解決する。

従来のAI創薬プラットフォーム
を特化型AIによって強化した

aibVIS

で事業の多角化を実現

安定性と収益性を兼ね備えた収益体制を構築

研究開始から製品が市場に出るまで約10年¹

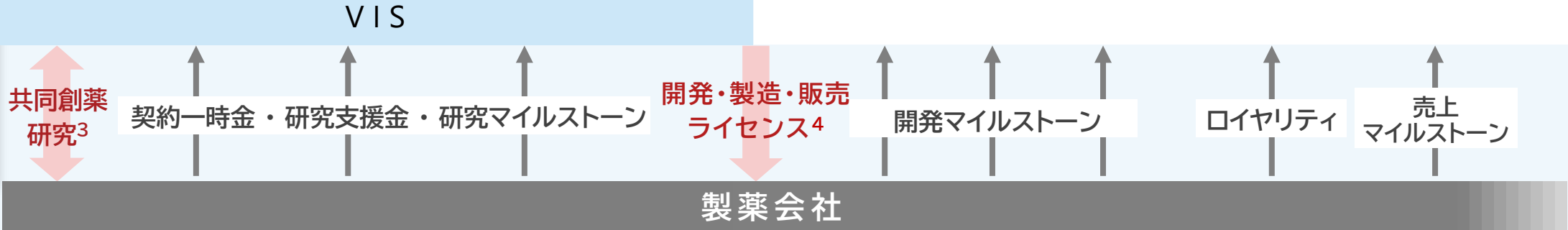
創薬研究
2～4年

開発²
6～8年

販売

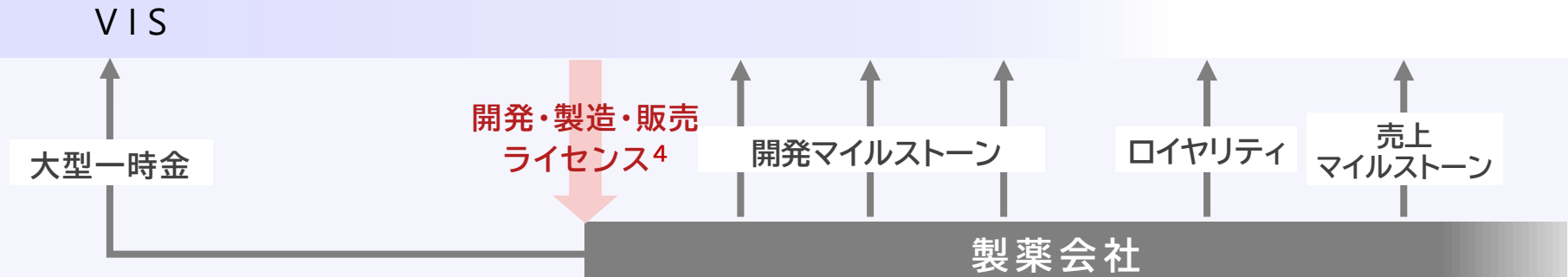
共同創薬研究によって、創薬初期から安定的な収益を獲得する収益構造

プラット
フォーム型



自社パイプラインを先行的に構築し、ライセンスアウトすることで大型の一時金とマイルストーンを得る収益構造

パイプライン型



↑ 収益発生ポイント

¹ 上市までの期間については、実際の研究開発状況により大きく異なる可能性がある。

² 現時点(2026年6月末現在)、製薬会社による開発・販売ステップにまで進んだ実績ない。

³ aibVISを使用した当社と製薬会社の協業は、創薬研究期間中に限られる。

⁴ 開発・製造・販売ライセンスに関する取り決めについては、基本的に共同創薬研究契約の締結時に盛り込まれる。



- 1 会社概要
- 2 事業ハイライト
- 3 財務ハイライト
- 4 成長戦略
- 5 Appendix

1月

創薬プラットフォーム **ibVIS®** を **aibVIS**へアップグレード

社内に蓄積されたデータを活用し、**ibVIS®**を改良。既存の特化型ルールベースAIに「特化型データ駆動AI」実装したことにより、AI創薬と生物学的研究を組み合わせた **aibVIS**に進化。

4月

川崎研究所本格稼働開始

4月1日、RNA研究特化施設として川崎研究所が移転完了。同月22日には関係者ご参列のもと、開所式を執り行った。将来を見据えた設計により効率的な研究が可能な体制を確立。

5月

SpiroChemとの新規契約締結

SpiroChemとmRNA標的化合物の共同探索研究契約を締結。現在最初の研究を開始し、研究活動と並行して、次の研究フェーズについても両社で検討を進める予定。

1月

ALS治療に向けた 新たな核酸医薬品の物質特許公開

1月19日に公開日を迎え、東京慈恵会医科大学との共同記者会見を実施。



4月

武田薬品工業との共同創薬研究終了

武田薬品とのmRNA標的低分子医薬品の共同創薬研究は4月13日付けで終了。得られた知見の今後の活用可能性については、引き続き両社で協議検討中。

5月

Perfusio事業 PMDA開発前相談の実施決定

PMDAとの開発前相談を通じて、承認申請に向けた必要要件を整理。導入体制を整え、計画通り2027年度内の販売開始を目指す。

4月

当社のAI創薬を支えるスクリーニング 効率化手法AISLARの論文掲載

当社CSOと研究員が共同で執筆した、特化型AIを用いたスクリーニングの効率化手法についての学术论文が、ドイツの科学誌Small Scienceに掲載。

知財戦略

上半期で新たな特許2件出願

1月以降に新たな特許を出願。一つは、新しい解析技術。**aibVIS**の技術力の底上げとなる。二つ目は、当社ドラッグデリバリーシステムPerfusioのビジネスモデル。

SpiroChemとの新規契約締結

プレスリリース [2026.05.11 SpiroChem と Veritas In Silico、mRNA標的化合物の共同探索研究契約締結のお知らせ](#)

覚書締結
2026.01

契約締結
2026.05

研究開始
2026.07

進捗:

2026年5月契約締結。
研究計画の合意後、現在最初の研究を開始し、具体的な成果創出に向けた活動を開始。

将来展望:

パイプライン拡充、
リード化合物の
迅速な最適化、
国際競争力の強化。

SpiroChem CEO 兼 創業者
Dr Thomas Fessard氏(右側)と
スイス・バーゼルにて



Current Approach

01. スイス訪問

- ◆ 創薬意欲が旺盛な欧州製薬企業への認知度向上
- ◆ 短期間で多数の潜在パートナーとつながり、効率的なネットワーキングによる提携機会の創出を実現
- ◆ ターゲットとする欧州市場で得た一次情報に基づき、アライアンス戦略を最適化

02. 自社Webinar開催

- ◆ 自社Webinar「VIS presents: Targeting RNA」を開始
- ◆ 従来のアプローチではリーチできなかった潜在顧客を獲得
- ◆ 広範なパートナー候補の中から関心度の高い顧客を効率的に選定

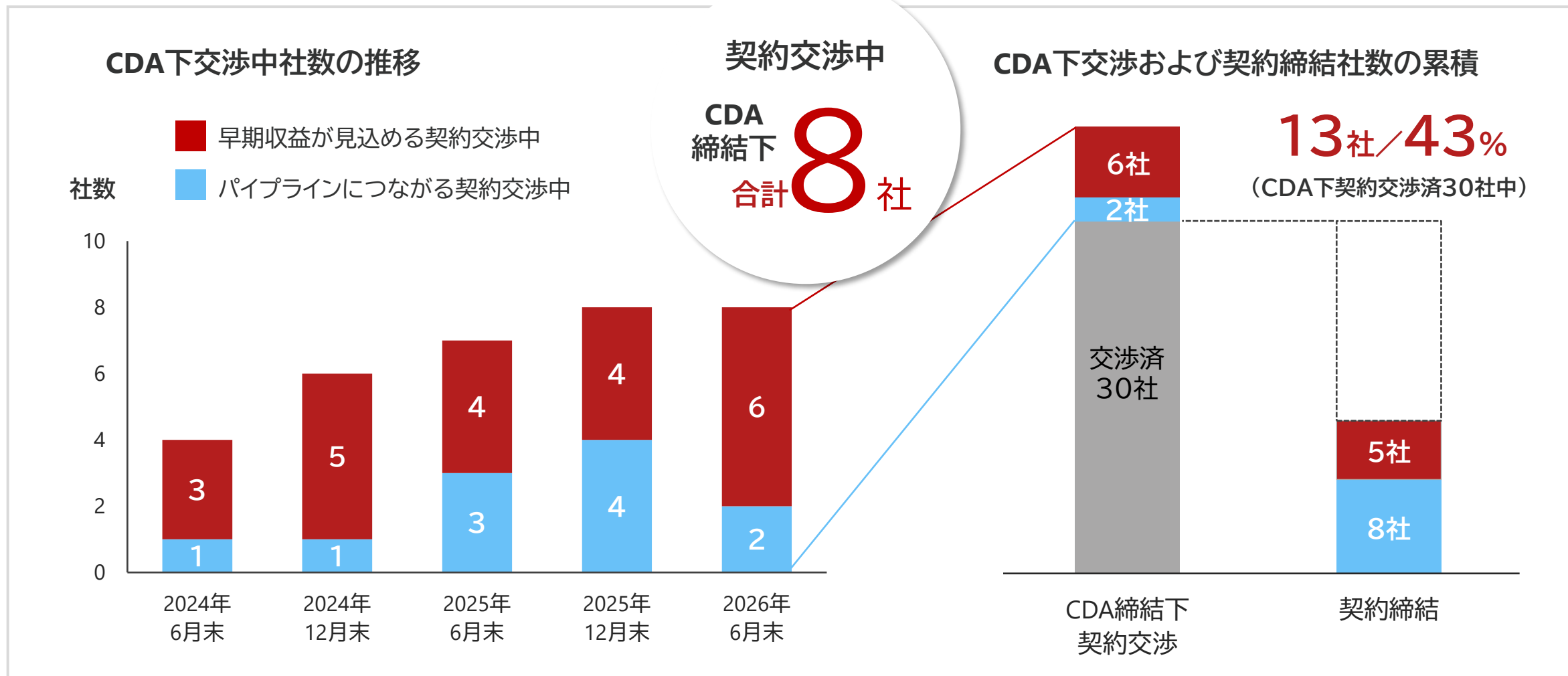
03. Perfusio認知度向上

- ◆ Perfusioの認知度向上の取り組みを本格的に開始
- ◆ 製薬業界向けのセミナー(JBA/CPHI Japan)を実施
- ◆ ビジネス誌からの取材対応

秘密保持契約数を確保し、早期収益化が見込める契約締結を目指す

国内外の農薬企業2社とCDAを締結。

契約交渉中の8社のうち2社は海外企業。引き続き海外展開を進める。



2026年4月1日付けで、川崎研究所移転が完了。

プレスリリース [2026.04.22 新川崎研究所の移転完了及び川崎研究所開所のお知らせ](#)

RNA研究の高度化を支える研究開発拠点

研究開発投資の一環として、**RNA研究に特化**した新研究所へ移転。

研究体制を強化するとともに、**mRNA標的**の低分子農薬への応用研究も効率的に推進できる研究環境を整備。

Point
01

RNA研究に特化

清浄性・動線・機器配置を最適化し、RNA研究に最適な環境を整備。

Point
02

AI・研究基盤を強化

最新研究設備の導入・更新、計算能力・AIの増強、研究プロセスのDX化を強化。

Point
03

実験室はおよそ4倍拡張

事務室スペースは約1.5倍、実験室はおよそ4倍の約275㎡に拡張。



設備投資額



研究施設

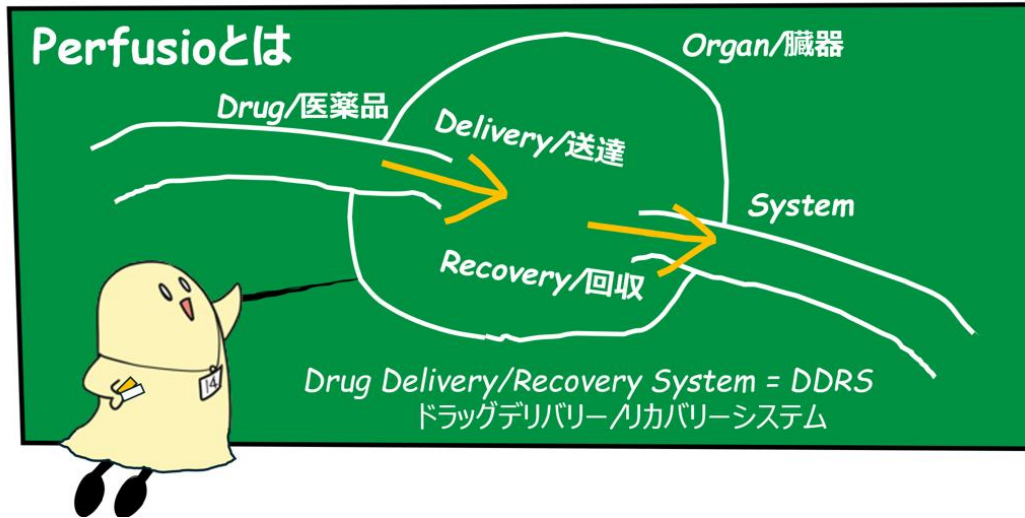
82百万円



研究機器

22百万円

(今年度中に導入予定の機器も含む)



Perfusioが創出する新たな可能性

- A) Phase Iで毒性等によりドロップした医薬品や
- B) 薬効は期待できても薬物動態が良好でない医薬品候補



- ◆ 既存の医薬品開発プロジェクトの事業価値を最大化
- ◆ 開発中止となった医薬品候補に、新たな活路を提供する

メカニズム

カテーテルを用いて**直接対象臓器のみに医薬品を送達、回収し、全身への循環を阻止**することで、治療効果を最大化し副作用を抜本的に低減する革新的なシステム。

特徴

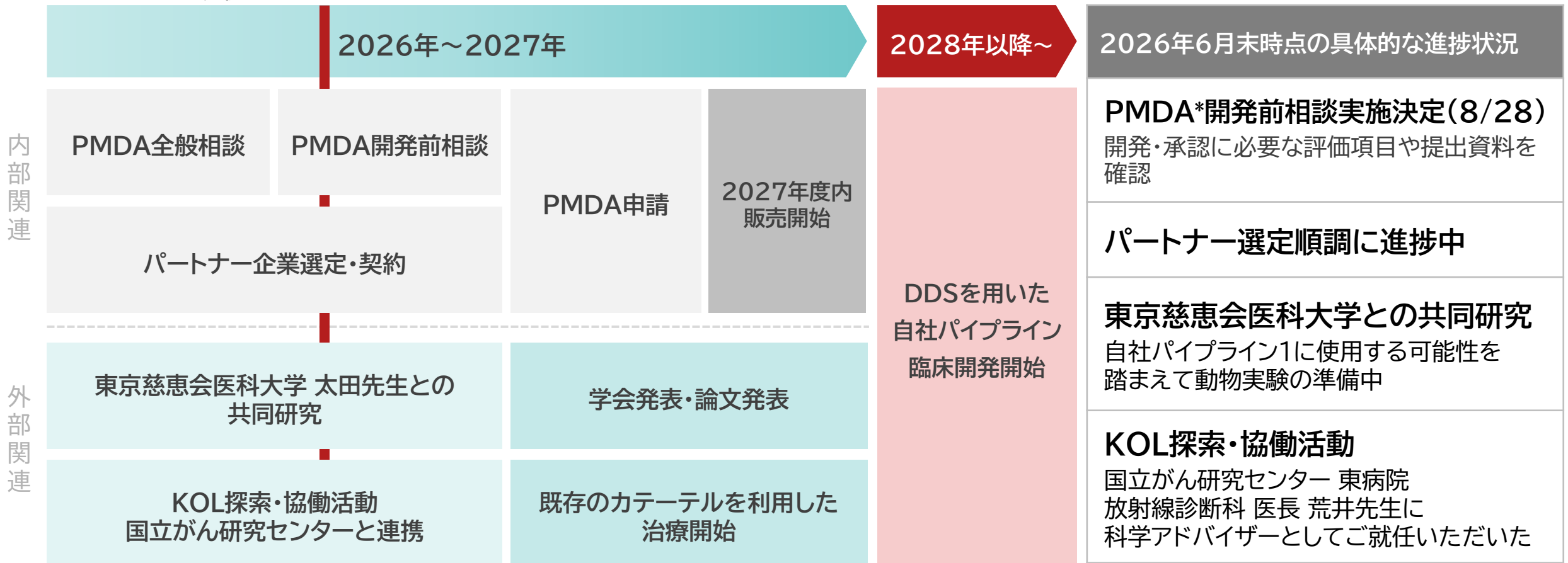
- 対象臓器に薬剤を集中送達・回収するため、薬効を最大限に引き出す
- 副作用の抜本的な削減
 - 標的臓器以外に薬剤が到達しないため、全身への負担が最小限に抑えられる(例:髪が抜けない等)
- 医薬品の開発期間短縮と使用量削減
 - 医薬品の臨床試験を簡略化できる可能性があり、医薬品使用量の大幅削減にも繋がる

Perfusioの実用化と事業体制構築を着実に進める

Perfusioの最短実用化と業界への露出を並行推進し、事業の体制を整え、2028年以降に自社核酸医薬品の臨床試験への利用を目指す。

プレスリリース：[2025.12.15 当社独自のドラッグデリバリーシステム「Perfusio」特許査定及び権利化手続完了のお知らせ](#)

← 現状のフェイズ →

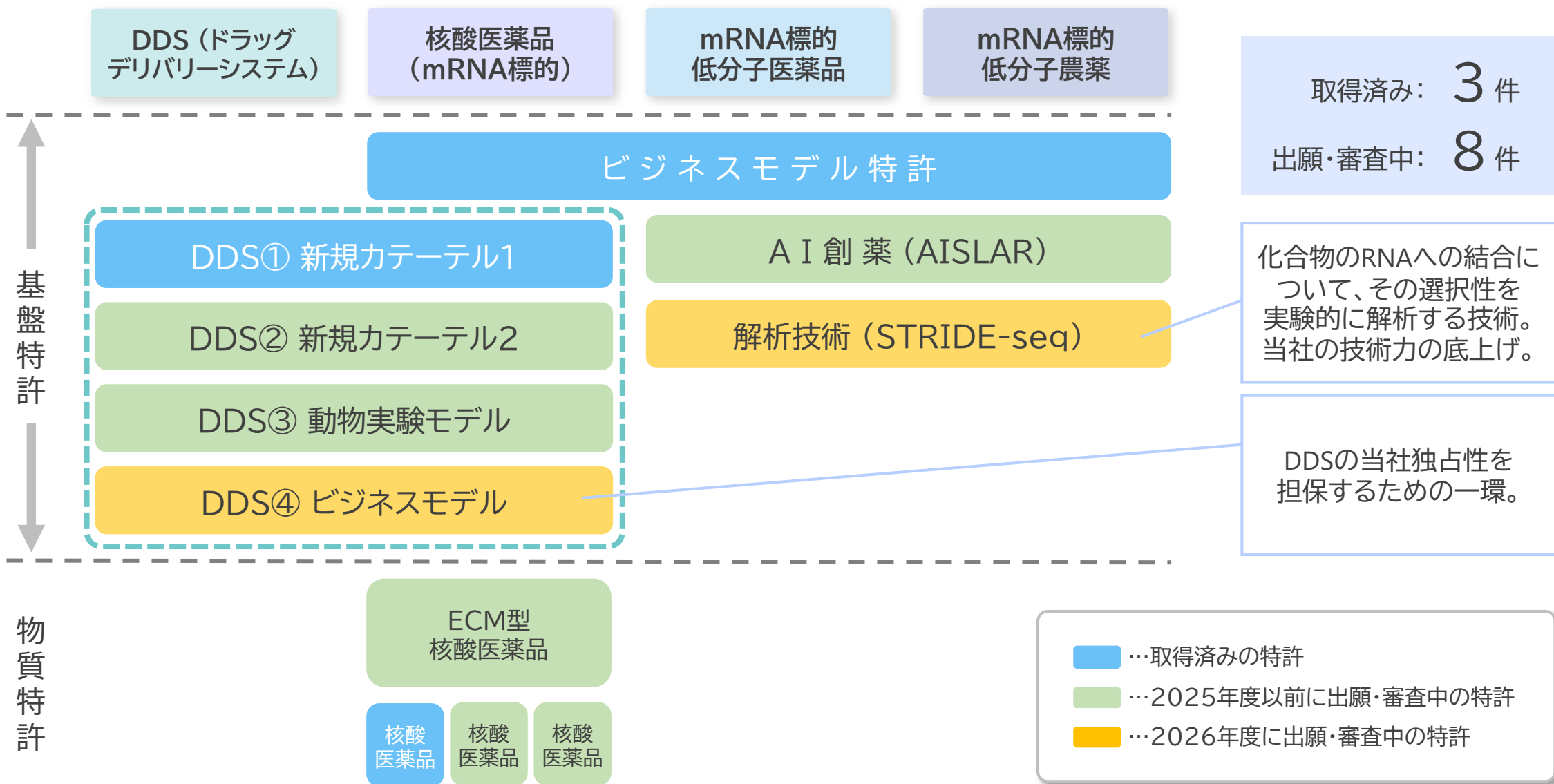


現在位置 2026/6

*PMDA(医薬品医療機器総合機構): 医薬品や医療機器の有効性、安全性、品質を確保するための独立行政法人

DDSについての詳細は2026年2月12日に開示した事業計画及び成長可能性に関する説明資料P28,40-43に記載しております。 16

特許申請・取得の状況：競争優位性を支える知財戦略





- 1 会社概要
- 2 事業ハイライト
- 3 財務ハイライト
- 4 成長戦略
- 5 Appendix

事業収益は研究支援金等36百万円を計上、事業費用は研究開発費132百万円を含む283百万円が発生。
特別損失にて固定資産の減損処理に伴う減損損失141百万円を認識。中間純損失は386百万円にて着地。

(要約)損益計算書 (単位:百万円)

	2025/12期 第2四半期実績	2026/12期 第2四半期実績	増減額	増減率	2026年度 第2四半期 主な内訳 (単位:百万円)
事業収益	43	36	△6	△15%	事業収益のうち 研究支援金等 36
事業費用	229	283	53	23%	事業費用のうち 研究開発費 132 販売費及び一般管理費 150
営業利益	△186	△246	△60	—	
営業外損益	3	3	0	—	
経常利益	△182	△243	△60	—	
中間純利益	△184	△386	△202	—	減損損失 141

四半期業績の推移(FY2024Q1~FY2026Q2)



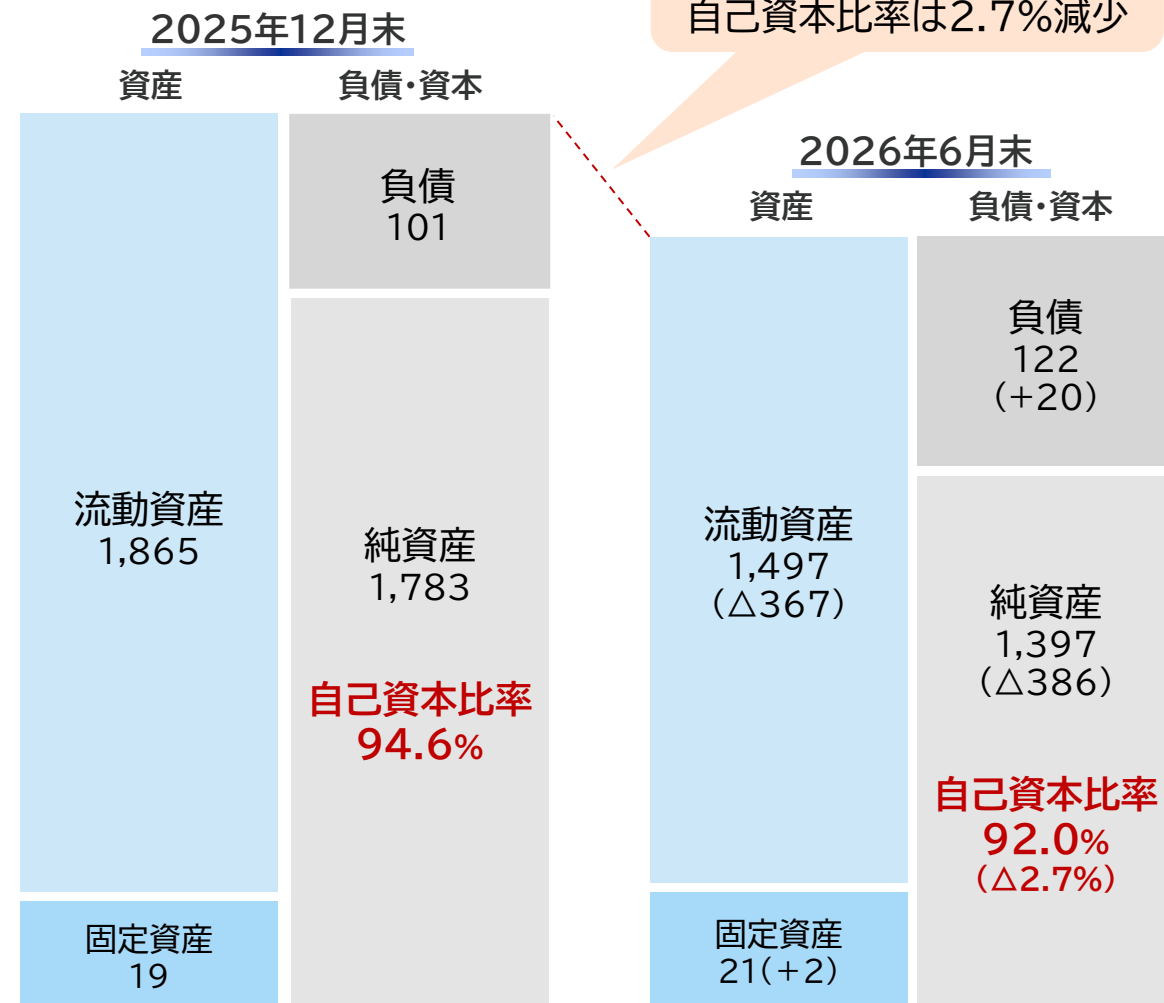
(要約)四半期会計期間損益計算書 (単位:百万円)

QoQ	FY2024 Q1	FY2024 Q2	FY2024 Q3	FY2024 Q4	FY2025 Q1	FY2025 Q2	FY2025 Q3	FY2025 Q4	FY2026 Q1	FY2026 Q2
事業収益	32	83	49	29	24	19	22	25	17	19
事業費用	97	85	104	120	105	124	124	134	139	144
営業利益	△65	△1	△54	△91	△81	△105	△101	△108	△122	△124
営業外損益	△22	0	0	1	1	1	1	1	2	1
経常利益	△87	△1	△54	△90	△79	△103	△100	△107	△120	△123
当期純利益	△87	△2	△55	△90	△79	△104	△101	△140	△256	△130

貸借対照表の推移（単位:百万円）

	2025年度 期末	2026年度 第2四半期末
現金及び預金	1,825	1,430
流動資産合計	1,865	1,497
有形固定資産	0	0
固定資産合計	19	21
資産合計	1,884	1,519
負債合計	101	122
資本金	10	10
純資産合計	1,783	1,397
負債・純資産合計	1,884	1,519

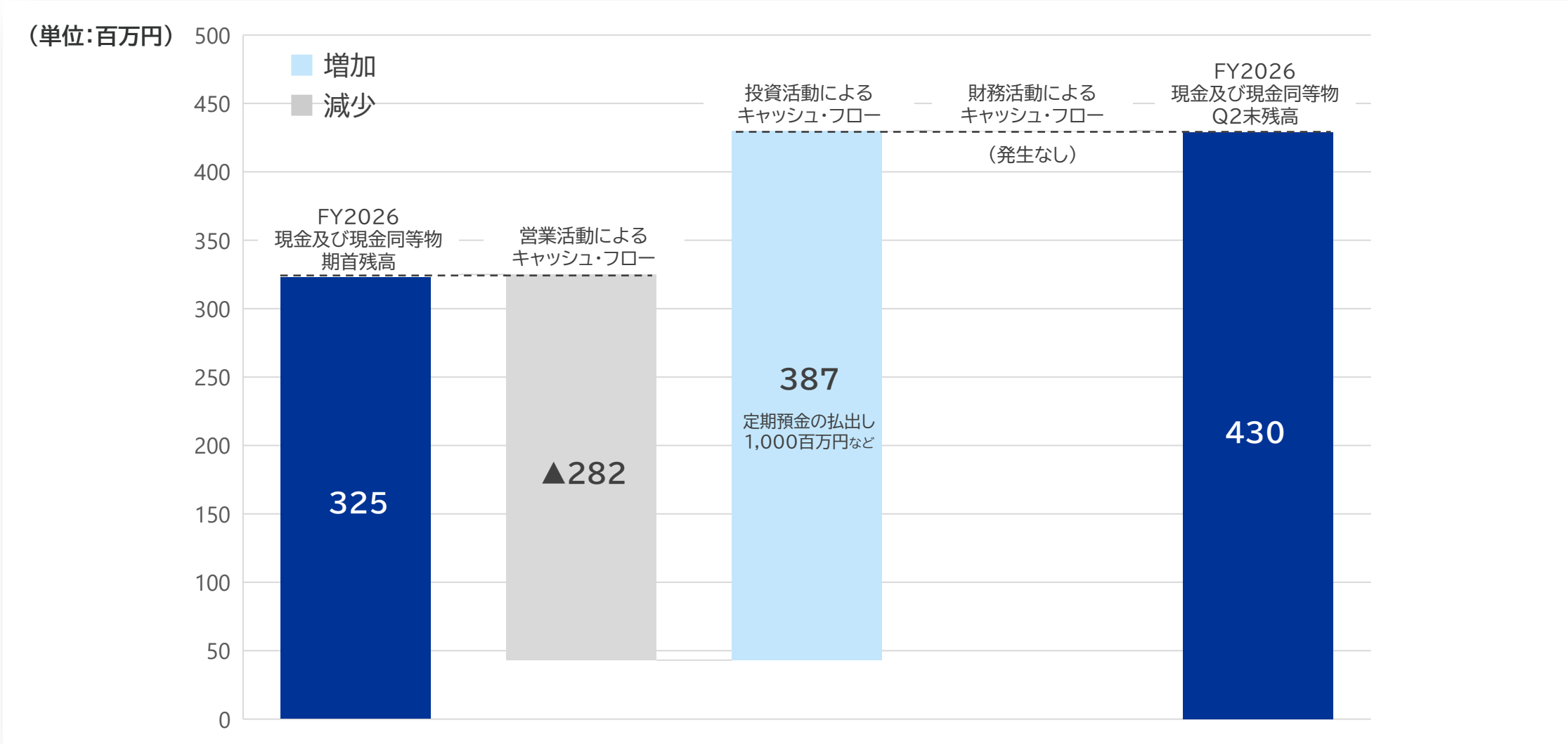
バランスシート推移（単位:百万円）



※本図のバランスシート項目の割合は概念的なイメージであり、正確な数値を反映したものではない。

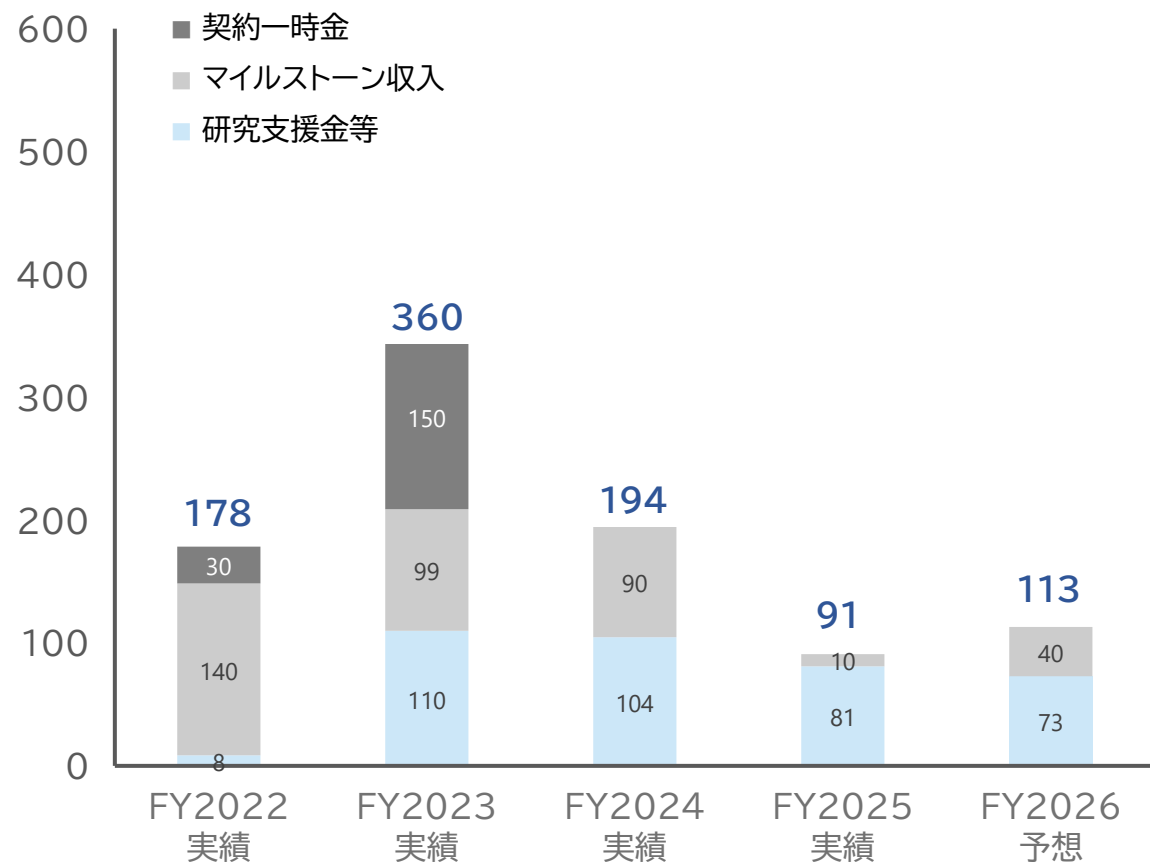
2026年12月期 中間会計期間キャッシュフロー

当中間会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、定期預金の払出し1,000百万円などにより、期首から105百万円増加し430百万円となった。

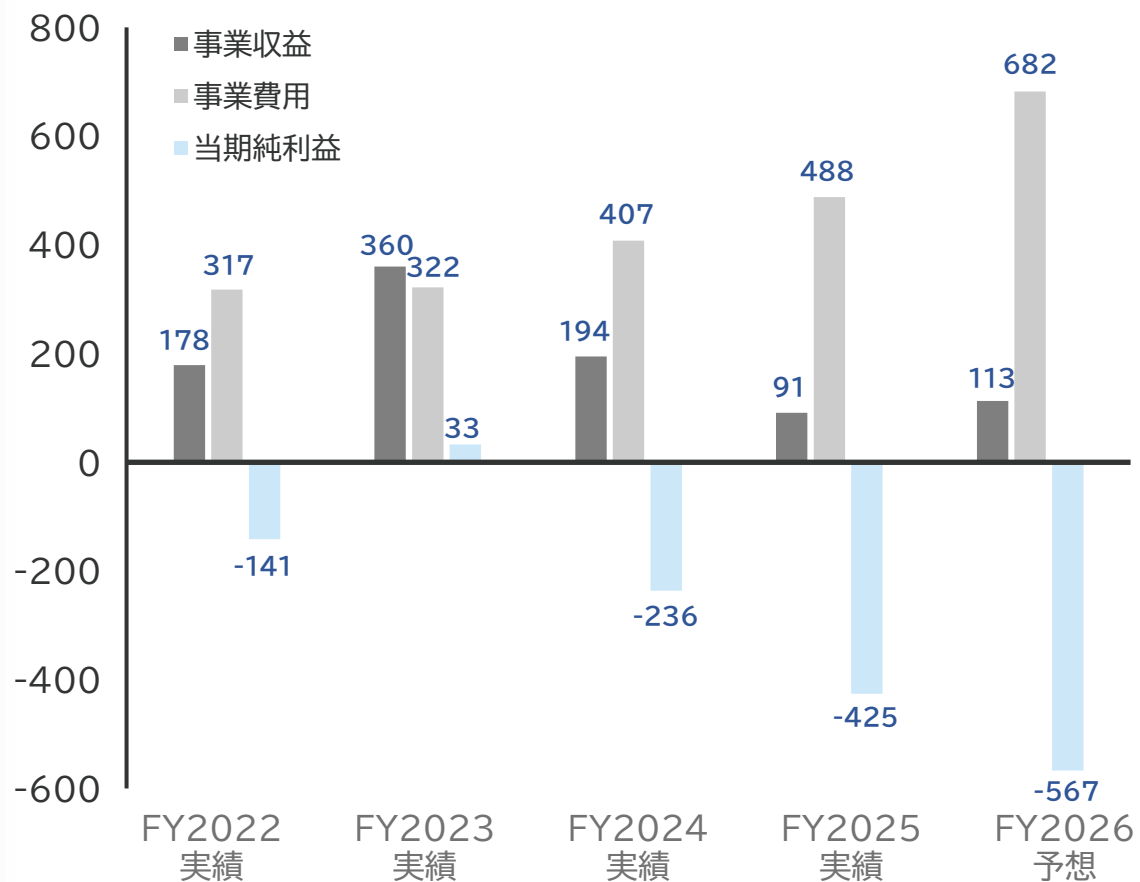


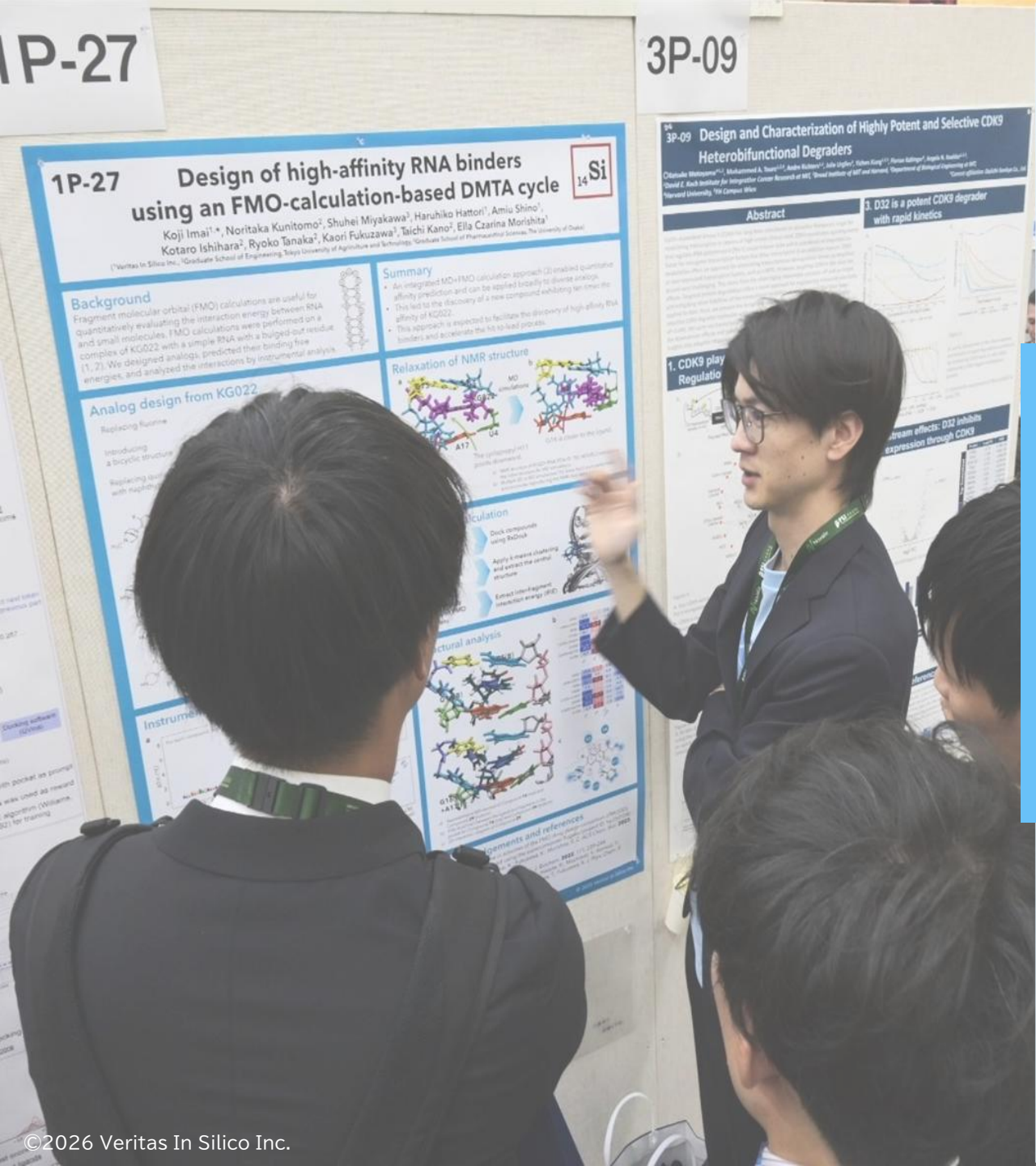
各年度 事業収益と収支の実績および業績予想

(単位:百万円)



(単位:百万円)

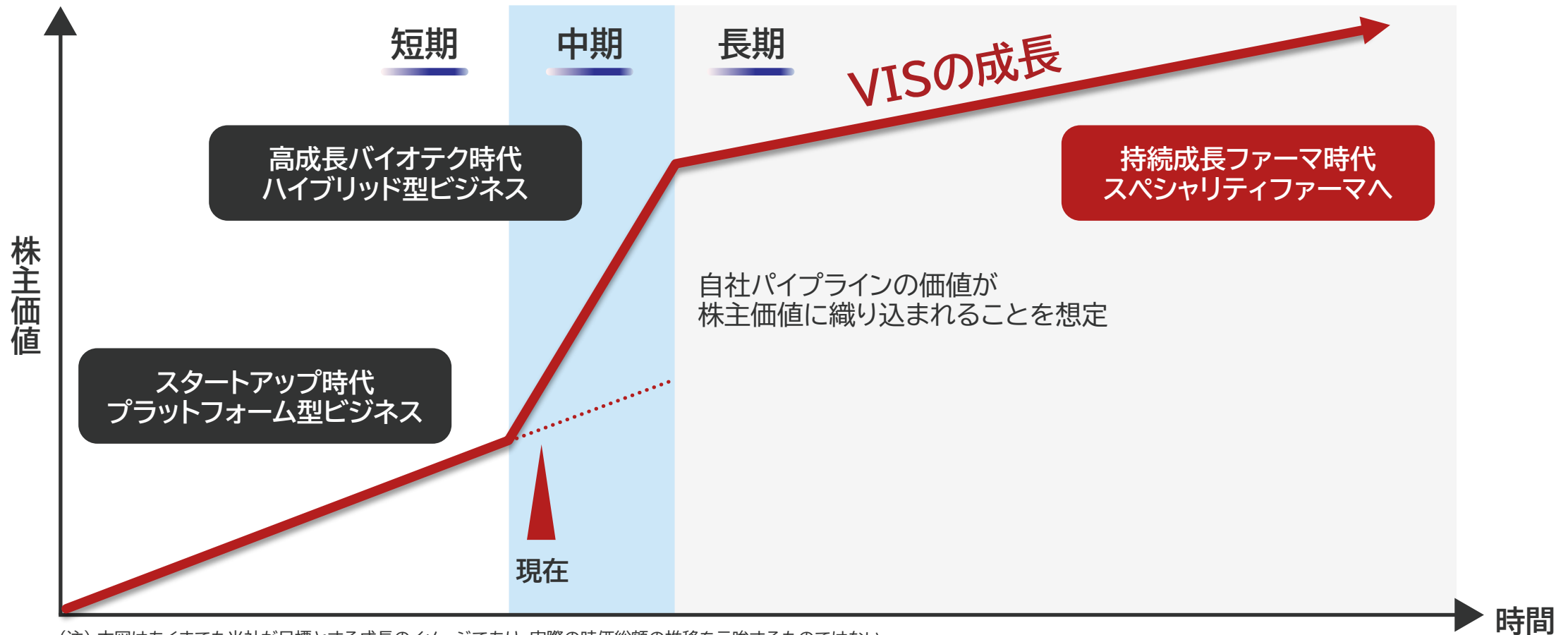




- 1 会社概要
- 2 事業ハイライト
- 3 財務ハイライト
- 4 成長戦略
- 5 Appendix

持続成長可能なスペシャリティファーマへ

高成長ハイブリッド型モデルを経て、持続成長可能で研究開発・販売機能を備えた製薬会社（スペシャリティファーマ）へ進化。



(注) 本図はあくまでも当社が目標とする成長のイメージであり、実際の時価総額の推移を示唆するものではない。

2030年ビジョンに向けた中期経営計画期間中の各年度目標

【中期経営期間中のKPI】

- ・新規契約締結数¹ 年間目標 **2社**
- ・パイプライン創出数² 年間目標 **1本**
- ・事業収益額³

2025年度 ハイブリッド型 ビジネス始動

- ・新規契約3件締結
- ・パイプライン1本目創出
- ・新川崎研究所移転準備

2026年度

- ・新規契約2件締結
- ・パイプライン2本目創出
- ・パイプライン1非臨床試験の開始
- ・DDSの事業化開始
- ・新川崎研究所移転完了

2027年度

- ・新規契約2件締結
- ・パイプライン3本目創出
- ・非臨床試験対応

2030年度

スペシャリティファーマ
としての地歩を確立

¹ プラットフォーム事業の進捗を測定する目安とします。

² 自社創薬研究成果の特許申請をもって「パイプラインの創出」とカウントします。

³ プラットフォーム事業とパイプライン事業の進捗のバランスを測定する目安とします。

新規契約の獲得を通じた収益基盤の強化と、自社パイプライン創出による将来価値の創出を推進。
外部環境の変化にも対応しながら、事業領域の拡張と収益機会の最大化をしていく。

Measure 1 新規契約 2件締結

新規契約2件締結をKPIとする
新たな企業との締結が進み、農薬企業を含む
国内外8社との契約交渉を推進。

Measure 2 パイプライン 2本目創出

自社パイプライン2の創出に向けた研究
を進める
2026年内の新規核酸医薬品の特許出願を
目指し、現在複数の有望候補を創出。

Measure 3 パイプライン1 非臨床試験の 開始

自社パイプライン1の非臨床試験
(動物実験)を進める
非臨床試験に向けた動物実験を年内に
開始できるよう準備中。

Measure 4 DDS(ドラッグデ リバリーシステム) の事業化開始

「Perfusio」の事業化準備を進める
PMDA開発前相談を8/28に実施することが
決定。2027年度内販売に向けて進捗中。

Measure 5 新川崎研究所 移転完了

新川崎研究所を移転させる
計画通り移転完了。4月より本格稼働開始。

株価を意識した経営:健全な株価形成を確保するための取り組み

2025～26年にかけて、事業進捗のポジティブな情報発信により株価が大きく上昇する場面で、毎回“大量の空売り”により株価が冷やされる状況が発生。これは「健全な株価形成を阻害するものではないか」と東証へ課題提起するとともに、市場ルール整備について提言。この提言は、東証の「市場区分の見直しに関するフォローアップ会議」にて公式な形で報告、議論されるに至った。

参考資料: [2026.06.04 グロース市場アンケートの結果と今後の方針について 東京証券取引所 上場部](#)





理念

mRNA標的創薬で 希望に満ちたあたたかい社会の実現を

創薬のブレイクスルーを実現し、
スペシャリティファーマ
を目指す

どんな疾患の患者さまも
最適な治療が
受けられるように





Appendix

Webサイト: [株式会社 Veritas In Silico](#)

Note: [中村 慎吾 | Veritas In Silico | note](#)

X: [株式会社Veritas In Silico【公式】\(@VeritasInSilico\) / X](#)

YouTube: [VeritasInSilico - YouTube](#)

LinkedIn: [Veritas In Silico Inc. | LinkedIn](#)

アナリストレポート: [Fisco 企業調査レポート 2026年5月8日](#)

Webサイト



Note



X



YouTube



LinkedIn



本資料は、株式会社Veritas In Silico(以下「当社」といいます。)の会社情報の説明のみを目的として当社が作成したものであり、日本国、米国その他の一切の法域における有価証券の買付け又は売付け申し込みの勧誘を構成するものではありません。日本国、米国その他の法域において、適用法令に基づく登録若しくは届出又はこれらの免除を受けずに、当社の有価証券の募集又は販売を行うことはできません。

本資料の作成にあたり、当社は当社がその作成時点において入手可能な情報の真実性、正確性及び完全性に依拠し、かつ前提としており、将来情報、外部データ等については、その真実性、正確性及び完全性について、当社は何ら表明及び保証するものではありません。本資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。

将来の事業内容や業績等に関して本資料に記載された記述は、将来予想に関する記述です。将来予想に関する記述には、「目指す」、「予測する」、「想定する」、「確信する」、「継続する」、「試みる」、「見積もる」、「予期する」、「施策」、「意図する」、「企図する」、「可能性がある」、「計画」、「潜在的な」、「蓋然性」、「企画」、「リスク」、「追求する」、「はずである」、「努力する」、「目標とする」、「予定である」又は将来の事業活動、業績、出来事や状況を説明するその他の類似した表現を含みます。将来予想に関する記述は、本資料作成時点において入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいて作成しており、これらの記述の中には、様々なリスクや不確定要素が内在します。

そのため、これらの将来に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の将来における事業内容や業績等が、将来に関する記述に明示又は黙示された予想とは大幅に異なることとなる可能性があります。したがって、将来予想に関する記述に依拠することのないようご注意ください。

なお本資料は原則として、期末決算発表の時期を目途に毎年更新し、開示する予定です。

お問合せ先：
株式会社 Veritas In Silico
経営企画部 広報IR担当
ir@veritasinsilico.com



Veritas In Silico